

2. さまざまなモノをインターネットにつなぐ「I o T」や「A I」（人工知能）など先進技術を活用した未来へのまちづくり

(1) 学校教育における「I o T」や「A I」に関する教育の取り組みについて

【答弁】

2. さまざまなモノをインターネットにつなぐ「I o T」や「A I」（人工知能）など先進技術を活用した未来へのまちづくり、の(1)について、お答えいたします。

現在の子どもたちが成人し、社会で活躍する2030年代は、グローバル化の進展、A Iやロボット技術などの絶え間ない技術革新により、社会構造や雇用環境が大きく、急速に変化することが予想されています。

2020年度から全面実施となる新学習指導要領では、こうした時代を担う子どもたちに育成すべき資質・能力として、「生きて働く知識・技能の習得」や「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養」の3つが定められました。また、情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」として位置付けられ、小学校でプログラミング教育が必修化されることとなりました。

小学校におけるプログラミング教育では、子どもたちに実際にプログラミングを体験させることで、問題の解決に向けた手順を考えるための論理的思考力や、豊かな創造力と発想力等を育成していくことが求められます。

こうしたことから、本市では、昨年度より、プログラミング教育への理解を深めるための管理職対象の研修や、実際の授業で実践できるように、教員を対象とした研修を実施してきました。昨年度の教員向け研修では、プログラミング学習用のツールとして、全国的に幅広い実践例が見られ、画面上でブロックを並べることでプログラムを作成できる「スクラッチ」を取り上げました。また、本年度は、これに加え、小学生の児童でも扱いやすいとされ、自分で描いた絵を目的通りに動かすプログラムをマウス操作だけで作成できる「ビズケット」も取り上げました。「スクラッチ」や「ビズケット」は、無料で利用できるばかりか、子どもにもたいへん親しみやすいツールであり、すでに市内各校に導入済みのパソコンでも活用することができます。

本市教育委員会といたしましては、これからの時代を担う子どもたちに、問題解決のための論理的思考力や情報活用能力を育成することはたいへん重要であると認識しておりますことから、教員や指導者の育成を図るために、引き続き外部講師を招聘した研修を実施するとともに、今後も、他市町村の先進的な取組みを参考に、研究と実践に努めて参ります。

合わせて、広く市民の方々の中で、プログラミングについて興味・関心を持ち、学んでみたいと思わるの方々に対しまして、生涯学習としての学びの場を積極的に設けていくことについて検討して参ります。